

SOKKIA REPORT

SOKKIA

SOKKIA Communication
Magazine

2008 春季号

Vol.19 No.2

「国家測量事業計画・管理」コース 研修レポート

世界の測量技術向上にも貢献する ソキアスクール

独立行政法人 国際協力機構^{ジャイカ}(JICA) 様

WORLD REPORT ~シンガポール~

ソキアの先進技術により実現した 世界最大サイズの観覧車「シンガポール・フライヤー」

UTOC Engineering Pte Ltd 様

NEW PRODUCT NEWS

3D 測定・解析プログラム **NETpro** ほか



トプコン 経営統合に向け

株式会社**トプコン**
取締役社長
横倉 隆



ソキア 歩み始めました。

株式会社**ソキア**
代表取締役社長
伊藤 仁

トプコンとソキアは、これまで個別に研究・開発、製造および販売・サービスを行い、作業の効率向上や精度向上に結びつく商品・システムを提供し、お客様とともに測量・ポジショニング技術の向上・発展を担い、社会インフラ整備そして国土の発展に貢献してきました。そして、トプコンとソキアは、いよいよ経営統合に向け歩み始めました。経営統合後は、両社の持つ技術、製造、販売そしてサービスに関する叡智を結集することにより、商品開発のスピードを加速させ、得意技術の融合による高付加価値商品を開発し、きめ細かなサポート体制を構築することにより、お客様に従来と変わらぬ信頼と新たな付加価値の提供を目指します。トプコンとソキアが生み出すこれからのポジショニング製品にご期待ください。

経営統合に向けてのお知らせ

- 1) 株式会社ソキアは2008年度の株主総会において社名を株式会社ソキア・トプコンに変更する旨の定款変更議案を付議する予定です。なお「ソキア」ブランドは今後も継続して使用する予定です。
- 2) 株式会社トプコンならびに株式会社ソキアの本社所在地に変更はございません。
- 3) 商品のご購入につきましては、これまで同様各社の販売会社、販売代理店を通じてお求めいただけます。
- 4) 株式会社トプコンはトプコンブランドのモータードライブ非搭載タイプトータルステーションの販売を中止いたします。これまでにご購入いただいたトータルステーションのメンテナンスは今後も継続いたします。その他の取扱商品に変更はございません。
- 5) 日本国外の販売・サービスネットワークの変更については、各社担当部課にお問い合わせください。

広がるフィールド、広がる商品レンジ



世界の測量 技術向上にも 貢献する ソキアスクール

2008年3月、海外から9名の方が神奈川県足柄上郡松田町にあるソキア研修所を訪れた。9名は、国際協力機構（JICA）が公募し、国土地理院で実施している「国家測量事業計画・管理」コースの研修に参加している研修員。そのコースの科目であるGPS関連の研修を、ソキアスクールで受講するため訪問である。この研修は、2005年度から実施されており、今年で3回目を迎えた。今回は天候に恵まれ、実習や工場見学が計画通りに進み、9名の研修員にとって実りある研修となった。研修の成果を、研修員のコメントとソキアスクールのスタッフへのインタビューなどから構成してレポートする。



2月13日、ソキア研修所の敷地内でRTK-GPS、ネットワーク型RTK-GPS、GISの野外実習が行われた。幸運なことに当日は天候に恵まれ、予定通りのカリキュラムをこなすことができた。

野 外 実 習



JICA 集団研修をサポートする ソキアスクール

デジタル技術の進歩や時代の要請によって大きく変貌した測量技術に対応するために、2000年に創立されたソキアスクール。最新機器を用いて測量に関する多種多様な実務研修会を開催してきた。中でも国際的な活動が、国土交通省国土地理院で実施している「国家測量事業計画・管理」コースのサポートである。

「国家測量事業計画・管理」コースは、独立行政法人「国際協力機構（JICA）」が公募し、国土地理院で実施している集団研修で、新興国のインフラ整備のために、測量・地図作成全般について計画および管理を行うことができる中核的な人材を養成することを目的としている。

2007年度は、アジア、アフリカ、



「GIR1600」を使い、GISの実習を熱心に受ける研修員たち。講師陣がマンツーマンに近い形で指導した結果、研修員たちは、測量機器に習熟して実習目的を達成することができた。

南アメリカから9名の研修員が参加しており、2007年10月から2008年8月まで研修を受けている。研修員は、筑波研究学園都市にある国土地理院や国土交通大学校などで組織強化手法、情報処理、地図編集、電子平板測量などマネジメントや測量全般に関する講義・実習を受けており、ときにはソキアスクールのような外部の測量関係施設の研修に参加することもある。

村田顧問の尽力で実現した ソキアでのGPS関連実習

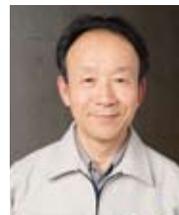
ソキアスクールでは、2005年度から「国家測量事業計画・管理」コースのRTK-GPSに関する実習を担当している。3年目となる今回は、2008年2月12日から15日までの4日間、神奈川県足柄上郡松田町のソキア研修所に9名の研修員を迎えて行った。ソキアの技術顧問である村田一郎氏をはじめとして、ソキアスクールの鈴木晶夫理事長、井上三男校長、千葉景司講師、島賢士講師が講義や実習を担当し、適宜、専門知識を持つソキアの社員がサポートした。

この研修が実現したのは、村田顧問の尽力によるところが大きい。村田顧問は、日本測地学会の会長を務めた経歴を持つ測地学の権威で、8年前から国土地理院において「国家測量事業計画・管理」コースの講義を担当してきた。常々、RTK-GPS

に関する実習の必要性を感じていた村田顧問が各方面に呼びかけを行った結果、ソキアスクールでの研修が実現したのである。

参加する研修員は30代から40代のマネジメントクラスで、この研修で組織レベルの力を強化することを主眼としている。村田顧問は「研修員は、マネジメントから測量実務までの幅広い内容を身に付けることになっていきます。ソキアスクールでの実習は現場のことを知るための貴重な体験となるでしょう」とソキアスクールでの研修の意義について語る。

この研修の実現のために村田顧問をサポートしてきた鈴木理事長は「国際貢献にもつながりますし、ソキアとしては喜んでお引き受けしました。最新の測量機器を用いた実習を体験してもらうことで、各国の測量技術レベルの向上に寄与する。それが、当研修の最大の目的です。できれば、ほかの研修もお手伝いできればと思っています」と語る。



株式会社ソキア
理学博士
技術顧問
村田 一郎



株式会社ソキア
ソキアスクール
理事長
鈴木 晶夫



「GSR2600」を使い、ネットワーク型RTK-GPSの実習を行っている研修員。測点の中には、故意に建物などの影響で、GPS衛星からの電波が届きにくい点も設定し、そのようなケースの対処方法までも学ぶことができた。



アフガニスタン
モハマド・ハルーン
・サマディ 様

「経験豊かで多彩な講師陣によって、GPSに関する理論と実際の測定法を理解できました。食事など生活面でも楽しいことがたくさんありました」



バングラディシュ
アブドゥス・ソブハン 様

「実習によって理解が深まりました。将来、利用するであろう最新の測量機器に関する豊かな知識を得られて、とても有意義な実習でした」



バングラディシュ
モハマド・カムルル
・アーサン 様

「研修カリキュラムがよく練られていて、効率的に学習できました。講師はとても経験豊かなプロフェッショナルで、フレンドリーでした」

Participant's Voice

最新測量機器を用いた野外実習が好評

**全員、誤差範囲に測位値をおさめて
スムーズに進んだGPS関連の実習**

「昨年の研修会が評価され、今年は1泊多い3泊4日の研修日程となりました。神奈川県温泉地学研究所様のご指導による施設見学、箱根形成の巡検などの企画を取り入れ、屋外実習を更に充実させることができました」とソキアスクールの井上校長。当日は

好天に恵まれ、実習は順調に進んだ。1日目に行われた村田顧問のRTK-GPSに関する講義を受けて、2日目にはGPS関連の実習がソキア研修所の敷地内で行われた。実習を担当したのはソキアスクールの千葉講師と島講師。午前中に実施したRTK-GPSの実習では、ソキアのGPS受信機『GSR2600』を用いて、5

ポイントの測位を2回実施した。島講師は「最初は測量機器の扱いにとまどう研修員もいましたが、2人に1人の講師がついて指導しましたから、スムーズに測位が行えるようになりました。1回目と2回目の測位結果を比較してもらい、どの程度の誤差があるのかを確認してもらいました。2cm以下が誤差範囲で、結果

は5mm以内の誤差でしたから、皆さん期待以上の数値を出したわけですよ」と結果について笑顔で語る。

午後には、ネットワーク型RTK-GPS（以下、N-RTK-GPS）とGISの実習を2チーム分けて行なった。N-RTK-GPSの実習では8点のポイントを測位し、その面積を算出することとした。

千葉講師は「N-RTK-GPSは、RTK-GPSの一種です。実習では、建物などの影響でGPS衛星からの電波が届きにくいポイントがあり、測位が困難なケースもありました。そのようなケースを体験することによって、現場での仕事を理解してもらいました」と述べる。

GISの実習は、ソキアのデファレンシャルGPS受信機『GIR1600』を用いて行なった。ソキアの空間情報事業推進室のスタッフがサポートに入り、GISに関するデータの収集と後処理について指導した。

島講師は「ポイントをデジタルカメラで撮影しながら、その座標を測位する実習です。収集した画像とデータを、ArcGIS®というソフトウェアを使用して、地図上に登録するところまで行いました。ArcGISを仕事で使用している研修員もおり、GIS情報を収集する手法に興味を持ったようでした」と語る。

3日目には、神奈川県温泉地学研究所を訪問し、地層や地震に関する



株式会社ソキア
ソキアスクール
講師
千葉 景司

展示物を見学、午後には地殻変動観測施設の見学など箱根形成に関する巡検を行った。

**使い勝手や精度の高さを体感した
トータルステーションによる実習**

4日目には、最新のトータルステーション『SRX』による実習が行われた。2日目にN-RTK-GPSの実習で測位した8ポイントを、もう一度、『SRX』で測位して、その誤差や使いなどを比較検討した。

千葉講師は「最新のトータルステーションによる測位値と比較することで、GPSの場合と、どのような差があるのかを体験してもらいました。『SRX』には自動追尾機能があるので本体側に観測員は必要なく、遠隔操作システム『リモートキャッチャー』を1人で持ち歩いて測定できます。その使い勝手や精度の高さを体感してもらえたと思います」と語る。

その後、研修員は『SRX』を生産するソキアの松田工場を見学した。特に『SRX』の製造工程について説明を受け、工場全体について知るこ



グアテマラ
ダニエル・エステバン
・マンソ・パリエントス 様



モザンビーク
アルベルト・ノータ
・コンボイオ 様



「講師がプロフェッショナルで、本当に素晴らしい実習でした。ソキア製品の性能の高さにも感心しました。ぜひ、最新ニュースを知らせてほしい」

「私にとってトータルステーションは新しいテクノロジーで、実際に操作できて勉強になりました。おかげで新たなアイデアを得ることができました」

「どの実習も勉強になりましたが、もっと時間を増やしてほしい。できれば目的に合致した調査手法の選択方法について、もっと詳しく教えてほしい」

Participant's Voice

ソキアスクールでの実習は貴重な体験



村田顧問によるGPSに関する講義、野外実習の事前説明、トータルステーションの紹介などがソキア研修所内で行われた。ソキア研修所には大小5つの研修室があり、さまざまな研修への対応が可能になっている。

講義

**最新の測量機器による実習と
経験豊富な講師陣に高い評価**

ソキアスクールの特徴は、最新の測量機器を使った実習と経験豊かな講師陣にある。その点について、研修員からは高い評価を得たようだ。最終日に研修員にアンケートをお願いしたところ、以下のような回答をいただいた。

実習については「最新の測量機器に関する豊かな知識を得られて、とても有意義だった」という回答をはじめ「カリキュラムがよく練られていて効率的に学習できた」というコメントをいただいた。また、指導した講師陣に対しては「経験豊かなプロフェッショナル」と評価が高く、マンツーマンに近い指導体制がよい結果につながったようだ。

ただ、言語に関しては多少問題があった。研修員は来日して3カ月なので、英語での会話はできるが、日本語は挨拶程度しか話せない。会話については通訳が同行し、資料も英語版を作成して対応したが、実習時に使用する測量機器やソフトウェアには日本語表示のものがあつた。そのため「GPS関連の実習のときには、英語版の測量



機器とソフトウェアを使ったかった」というコメントが寄せられた。

島講師は「今回、トータルステーションについては英語のメニュー表示だったのですが、GPS関連の測量機器やArcGISのソフトウェアは日本語表示なので、操作にとまどったようです。操作に慣れるまでは、とにかく質問してもらいました」と説明する。

他には「全体の実習時間をもっと長くしてもらいたかった」「もっと詳しい知識を得たい」「製品に関するニュースがあれば、適宜、知らせしてほしい」など積極的なコメントをいただき、研修員全員からは「素晴らしい体験となった」というような感謝のコメントが寄せられており、今回の研修も成功を収めたと言えるだろう。

**カリキュラムのさらなる充実を図り
ソキアスクールの国際貢献は続く**

ソキアスクールは、日本で唯一、最新の測量機器を用いて測量実習を実施できる組織と言っても過言ではない。その背景には、ソキアが各種の測量実習をサポートしてきた歴史がある。

ソキアにおける研修は、およそ30年前にソキア製品を販売する営業マンやサービス技術者を対象に始められた。その後、外部からの要望に応じて、土地家屋調査士や高等学校の教員などの研修が定期的に行われるようになり、1994年には54名の宿泊が可



株式会社ソキア
ソキアスクール
講師
島 賢士

能なソキア研修所が建設された。その頃、測量機の高性能化や多様化が進んだことなどで、学校などで現場に即した実習が難しくなり、ソキア研修所を中心に活動している「ソキアスクール」が注目されるようになった。

現在のソキアスクールの活動について、鈴木理事長は「トータルステーションなど最新の測量機器を用いて、土地家屋調査士を対象にした定期的な研修を中心に、さまざまな研修活動を行っています。学生対象では東京大学と東京工業大学の測量実習を行っており、今年度からは、都心にある他の大学の測量実習も企画しています」と説明する。

「国家測量事業計画・管理」コースの研修をサポートできたことで、ソキアスクールの存在感は大きくなっており、今後の活動に注目が集まっている。

最後に井上校長は「測量指導者用研修会の継続的な企画や、今回のような研修を引き続き実施しながら、国際貢献できる機会を増やしていくつもりです。そのような活動に注力していくことで、国内外の測量技術の向上に寄与しながら、ソキアに対する信頼感を高めていきたい」と今後への思いを語ってくれた。



村田顧問によるGPSに関する講義の様子。海外の大学で講義した経験もある村田顧問は、英語で講義を行った。研修員の皆様も通訳なしでの講義を熱心に聴き入っていた。



ミャンマー
オウン・モ様

「新技術と最新機器に触れ、RTK-GPSに関するスキルが向上しました。この実習は、将来、私の部署を改善するためのよい手本となるでしょう」



ルワンダ
バングツ・オリヴィエ様

「ソキアスクールで豊かな知識を得ることができました。内容を改善するとしたら全体に実習時間を増やし、特にGISの実習時間は長くするとよいと思う」



イエメン
モハメド・アブドゥルガーニ・アブドゥルラブ・マクベル様

「新しいテクノロジーを学んで、実際に実習を受けられたことがよかった。ソキア製品に関するニュースがあれば、適宜、知らせしてほしい」

Participant's Voice

ソキアへの信頼感を高める国際貢献

測量業界の未来のために。 さまざまな研修会を開催。

ハイテク測量機器や高分解能画像などのデジタル技術の進歩により、測量の実務教育の重要性が叫ばれている。

ソキアでは、ハイテク化した測量機器を提供していくに当たり、測量機器の操作のみならず、測量の技術や情報、継続的な教育の場の提供による社会貢献を目的としたソキアスクールを2000年(平成12年)に開校した。

ソキアスクールでは、GPSやトータルステーションなど最新の測量機器を導入したさまざまな研修を行っており、海外からも多数の研修生が参加している。2008年度は、土地家屋調査士のためのGPS測量実務研修会や基準点測量研修会をはじめ、ディーラー様やユーザー様の教育を目的とした研修、大学生・高校生の測量実習などを予定している。

2008年度 土地家屋調査士を対象とした研修会実施予定例

- ・第50回測量実務研修会(6月30日～)
- ・基準点研修会/上級(7月18日～)
- ・基準点測量研修会/中級(12月3日～)
- ・第51回土地家屋調査士測量実務研修会(2009年1月26日～)
- ・土地家屋調査士のためのGPS測量実務研修会(2009年2月17日～)

ソキアスクールについてのお問い合わせ・お申し込み

Tel.046-248-0096 Fax.046-247-1731
www.sokkia.co.jp/corporate/profile/school.html

POINT



敷地の内外に数多くの実習コースを設置

ソキアスクールでは、付近の電子基準点から求めた公共座標(測地成果2000)による実習コースを数多く設置しているので、あらゆる測量実習を行うことができる。基準点測量の研修会では、研修所の外にて寄地区全体を測量フィールドにして実習を行っている。



校内基準点



実習コース(上:校内、左:校外)



①②スクールには普段あまりふれることができないような最新機器が揃えられており、研修では実際に操作しながら測量技術を学んでいく。③ラウンジは光が充分に取り込まれ、休憩時間や食後などはゆったりとくつろげる。④講義が行われる大研修室は54名が収容可能。落ち着いた講義が受けられる。





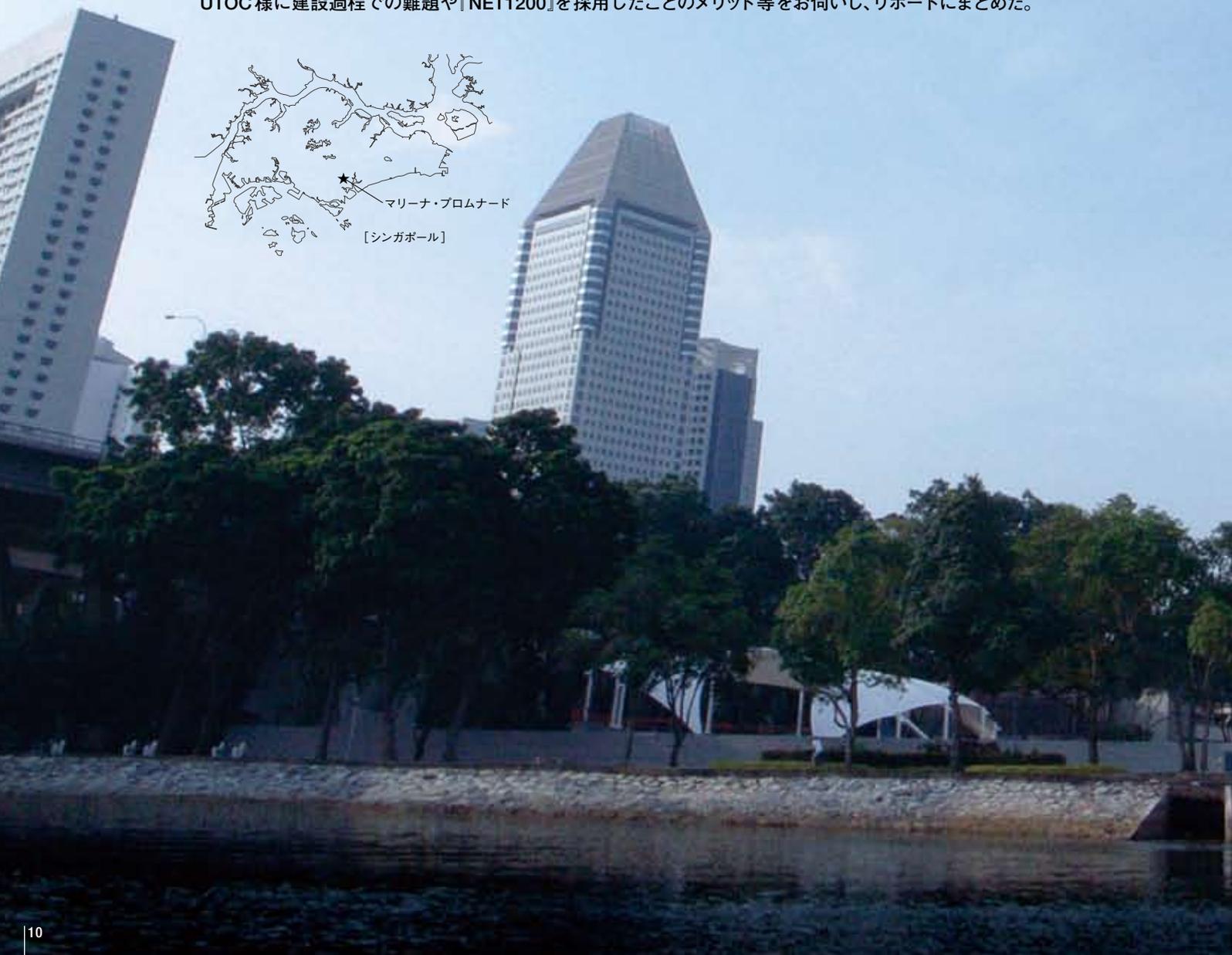
Singapore Flyer



ソキアの先進技術により実現した 世界最大サイズの観覧車「シンガポール・フライヤー」

シンガポールは豊かな歴史を持つ国で、近年では、技術、機械、石油化学およびバイオメディカル分野で成長著しい国として知られている。その国に2008年2月14日、世界最大サイズの観覧車「シンガポール・フライヤー」が開業した。マリーナ・プロムナード沿いに立ち、高さが165mで直径150m、27人乗りのエアコン付きキャabinを28台備えている。一周するのに37分を要し、シンガポールの中心部はもちろん、約45km先の沖合まで、息をのむほどの絶景が楽しめる。

この建設を請け負ったのが UTOC Engineering Pte Ltd 様（以下、UTOC 様）で、横浜に本社を構える株式会社宇徳様が1989年にシンガポールに設立した会社である。建設にはさまざまな難題が待ち構えていたが、ソキアの高精度な測定機『NET1200』を採用することで解決できたのだという。そこで今回は、UTOC 様に建設過程での難題や『NET1200』を採用したことのメリット等をお伺いし、レポートにまとめた。



建設における様々な難題と『NET1200』採用理由

シンガポール・フライヤーの建設では、数々の難題にぶつかったのだとUTOC様は語る。

まず直面したのが、許容誤差の厳しい支柱の建設と、リム構造物の建設に支障をきたす強烈な海風の影響を常時モニターしなければならぬこと。さらに、建設地のマリーナベイエリアは、シンガポール中心地の商業区域に隣接し、マリーナ湾に沿うように伸びている狭い地区なので、垂直測定を行うにも、作業スペースが狭いうえに、支持構造物の高さが85mもあるため、急角度の仰角を測定しなければならなかったのだという。この問題を解決するためには、両支柱の基礎を指し渡し基準を基準にしなければならず、このために優れた測量技術と高精度な測定機が必要になったのだと語ってくれた。

次なる難問は、巨大観覧車の中心軸の取り付け作業である。中心軸は重量が、180tもあるうえに、リム構造物を支えるために放射状に配置した112本のケーブルを支えている。この中心軸の両端を、2本の支柱に2000本以上のボルトで取り付けるのだが、工事前に、中心軸と支柱のボルト穴が合致するか測定する必要があった。この作業には多大な忍耐を要することから、作業員の疲労を



限られた作業スペース



支柱の第1セクションの建設



中心軸

抑えるためにも高精度で使いやすい測定機が必要だったのだとUTOC様は語る。

さらに、作業スペースが狭いので、中心軸を持ち上げて空中で取り付けるという難易度の高い工法を余儀なくされたという。4台のジャッキを使用して持ち上げたが、どうしても4台の持ち上げ速度には違いが生じてしまう。そのため、技術者が中心軸を取り付けている間、中心軸の両端が同じ高さになるように水平度を絶えず監視しなければならず、このためにも高速で高精度な測定機が必要だったと説明した。



「我々の要望に迅速に対応してくれるソキアのアフターサービスに大変満足しています」

UTOC Engineering Pte Ltd
上級建設部長
リン・テン・メン 様

3D STATION
NET1200

Bluetooth®



**優れた建設は
優れた計画から始まる**

先述の難題をクリアできる高精度な測定機ということで、ソキアの高精度3Dステーション『NET1200』が最有力候補に挙がった。しかし、UTOC様は6年前からソキアのトータルステーションをご使用いただいていたのだが、高精度な測定機の使用経験がなかったため、採否に一時迷ったという。だが「全許容誤差範囲が地上85m地点で5mm」という高精度であることを考え、それが最良の選択であると決定したのだと語ってくれた。

『NET1200』は、三次元測定ソフト『SDR4000』と併用すれば、各点を最高精度で三次元測定し比較することができる。また、任意の点で2、3カ所測定すれば座標系の構築ができるので、既知の基準点を必要としない。つまり、測定機を好きなどころに設置してモニターできるので、

シンガポール・フライヤーの建設現場のような限られたスペースでも、高さが165mもある支持リムの先端を正確に測定できた。

このことにより、UTOC様からも「モニターの作業時間が短縮し、オペレーターの疲労が大幅に軽減した」と喜びの声をいただいた。

ソキアの反射シートも全作業を通して200カ所に使われている。UTOC様は、構造および設計技術者と事前に計画を立て、実際の建設が始まる前に、地上で支柱およびリム構造物に反射シートを貼り付けたとのことである。

**ソキアは初期段階から
UTOC様をバックアップ**

ソキアでは、『NET1200』を完璧に使いこなせるようになっていただくために、オンサイト・トレーニングを実施した。実際の工事が始まる前、建設現場とプロジェクトチームを定期



(上)仮設の支柱が取り付けられたシンガポール・フライヤー
(左)より高精度で遠くまで測定が可能な『NET1200』

的に訪ね、作業条件をシミュレートし、トレーニングを行った。その甲斐もあり、実際の現場では、難しい工事なので多少の苦労はあったものの、予想以上に作業は、スムーズに進行し、予定より数日早く完成させることができた。

この歴史的な大事業である、世界で一番大きな観覧車の建設に参画できたことは、ソキアにとっても誇りであり、今後も世界各地で建設事業をサポートしていきたいと考えている。



(上)キャビンを上部に持ち上げている (中)キャビンの1つをリム外周部に取り付けている (左下)スチール製支柱の据え付け (右下)建設前に200枚の反射シートが注意深く貼り付けられた



「『NET1200』は非常に扱いやすい機械です。基準点(既知点)が必要なく、角度が急でも精度が保たれるので、信頼性の高い結果が得られます。」

UTOC Engineering Pte Ltd
プロジェクトエンジニア
タン・ウィー・キー 様



「測定精度が高く、操作性がよく、信頼性が高いので『NET1200』と『SDR4000』に本当に満足しています。」

UTOC Engineering Pte Ltd
シンガポール・フライヤー・プロジェクト
建立マネージャー
大友 博昭 様

3D測定・解析プログラム

NETpro



三次元測定システム MONMOS に、造船用 3D 測定・解析プログラムが加わりました。造船のコストダウン・納期短縮・省力化・品質向上を強力に支援します。

MONMOS による計測データを、3D グラフィック表示。船体ブロックをはじめ、大型部材の寸法チェック・取り合い（接合）確認が、PC 上で直感的に行えます。

- 計測データを立体画像で見られますので、熟練者でなくても、寸法・形状などのチェックが容易に行えます。
- 製造工程の中で設計値と実測値の比較を随時行うことにより、船体ブロックや部材の製造精度を向上させることができます。
- ブロック同士の取り合い（接合）確認が PC 上で行えます。不具合箇所を事前に発見し、製造工程で修正しておけば、時間と手間のかかる現場でのブロック修正作業を、大幅に削減することができます。
- 個々のブロックの製造精度向上が、船全体のクオリティアップをもたらします。



位置情報取得プログラム

SDR Image Pocket

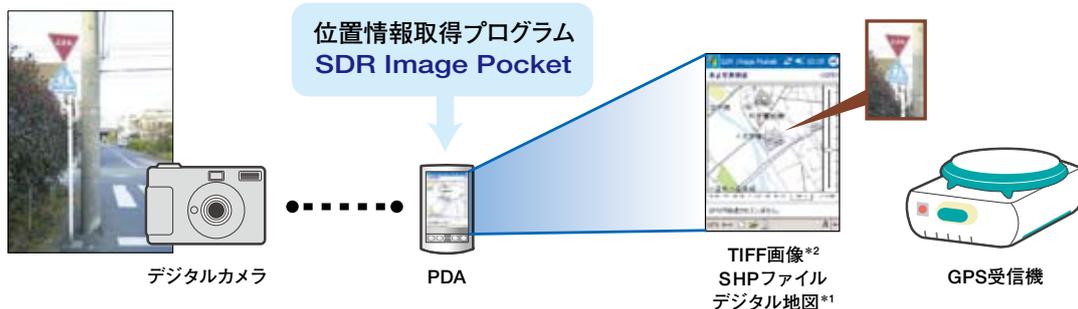
新機能追加

「SDR Image Pocket」はディファレンシャル GPS 受信機 GIR1600 とデジタルカメラで、誰でも簡単に位置情報と属性情報を収集できる PDA 用モバイルアプリケーションです。

- 背景図には、これまで推奨していたデジタル地図*1に加え、TIFF 画像*2（紙地図のスキャンデータや航空写真など）や、SHP ファイルを表示しながら位置情報の取得が可能となりました。フィールドで PDA 画面にオフィスで使っていた背景図を表示しながらの観測・調査が可能となり、装備の簡素化・作業の効率化が図れます。

*1 昭文社 Super Mapple Digital 対応 *2 ワールドファイルが必要

情報収集



STANDING TRUE

STANDING TRUE — それは、私たちソキアの新たな決意です。
お客様への誠実を貫くこと。
最高の精度を真摯に求め続けること。
その姿勢をこの言葉に込めました。

これからも、信頼される製品と万全のサービスをご提供することで、
お客様の満足を追求してまいります。
ソキアのこれからの、どうぞご期待ください。



SOKKIA

株式会社ソキア ©2008 SOKKIA CO., LTD. www.sokkia.co.jp

S-44-J-1-0804-CA-SC

SOKKIA REPORT

ソキアレポート Vol.19 No.2
通巻第44号/2008年11月発行 発行/（株）ソキア広告宣伝課

株式会社ソキア
<http://www.sokkia.co.jp>

本社：神奈川県厚木市長谷260-63 〒243-0036 TEL: 046-248-0069(代表) FAX 046-247-6886
広告宣伝課：TEL: 046-248-4342 FAX 046-247-1731

ソキアレポートと実際の製品の色とは印刷の關係で多少異なる場合があります。
ソキアレポート記載の製品名・OS名・ソフトウェア・ロゴ名等は各社の商標または登録商標です。
BlueIcon SIG, Inc. の登録商標です。